

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
・理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
・安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
・サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム彩葉
(ユニット名)	1階
所在地 (県・市町村名)	長崎県佐世保市棚方町424 - 272
記入者名 (管理者)	中尾 久美子
記入日	平成 19 年 8 月 1 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		もっと近隣の方や、外部の方々に気軽に足を運んでいただけるような環境を整え、地域の中にも積極的に働きかけを行っていく。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		今まで以上に地域の方々との交流を図り、ご理解、ご協力を仰ぎ、行事等に参加をさせていただき、楽しみを共有したい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議での話し合いを通じて、地域の会議に議題を取り入れていただき、当所にも気軽に足を運んでいただけるよう呼びかけを行っている。		今後、施設として介護教室などを開き、様々な方にもっと当施設を知っていただき、ご理解いただけたらと思う。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	毎年の外部評価の結果に基づき、会議、申し送りなどを行い、利用者様主体に考えた支援、居住空間の改善に取り組んでいる。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回、活動報告を行い会議参加者のご意見を基に、取り組みなどを行っている。		会議での議題、ご意見を職員一同に伝達し、サービスの質の向上に努める。また、地域の方々や家族の参加が増加するように努めたい。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	様々な取り組み、サービスの実施、提供ができるように市町村との連携を密に図り、お互いの情報や意見の交換が出来るように努めたい。		もっと市町村との連携をとれるような働きかけを行い、サービス提供に努める。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	今は、必要な方がいらっしやらないので、活用していないが、今後に向けて、勉強会などを開き、学ぶ機会を設けたい。		今後、話し合いや勉強をする機会を設け、必要に応じた需要と供給に努めたい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	常に個々で認識をし、注意を払っている。また、職員会議や申し送りなどで、個々の日々を振り返り、利用者主体の支援を提供することを心がけている。		日々の言葉使い、行動、接し方に常に注意してはいるものの、馴れ合いになっているようなところがあるので、利用者主体のサービス提供を心がけ、職員個々で注意する。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約、解約時に限らず、利用者とは、日々コミュニケーションの場を図り、話を傾聴する。また、ご家族様との連絡を密に取り合い、理解、納得を図っている。</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者の意見等ある時は、職員一同で把握しまた、ご家族様にも連絡をいれ様々な観点から問題解決を行っている。</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月、書面にて、あるいは面会時、電話連絡などを行い、情報提供している。</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>職員会議、または、運営推進会議などで講評し、改善を行う。</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>常に、職員間の意見、情報交換を行い、問題把握に努めている。</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>毎日の申し送りや、職員会議などで話し合いの場を設け、問題解決、人員確保に努めている。</p>		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>運営上の異動や離職を最小限に抑え、利用者に伴うリスクが無いよう務めている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	様々な研修に参加し、施設報告を行い、職員の育成向上に努めている。		毎日の勤務に職員を確保しなければならず、多くの研修に参加できないが、今後、今以上に研修に参加し、報告書を作成、報告し、日々のサービス提供に取り入れる工夫をしていきたい。
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	協議会等の参加、情報交換をし、施設の取り組みに役立っている。		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	全体の職員会議、または、個々での話を傾聴し、様々な働きかけを行っている。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員が向上心を持って働けるような環境を整え、資格取得に向けた、支援を行っている。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	個々にゆっくり時間をとり、話を傾聴し、職員一同で問題を把握しより良いサービス提供が出来るよう努めている。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本施設の運営理念、方針を説明し、またご家族様の相談に基づき時間を掛けて、問題解決に導く。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	個々の思いを重視したサービス提供を行えるよう務めている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	常に、利用者主体で考えご本人、ご家族のご意向を重視し、時間を掛けながら支援できるよう務める。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	様々な働きかけを行うことで、一緒に生活を共にする空間を大切に、職員が学ぶ事の気づきにもなっている。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様からの情報提供(交換)も行い、且つ、ご意向を尋ね連携を保ちながら、支援している。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	外出、外泊、面会時などご家族との時間をゆっくりと過ごしていただき、安心できる場を提供している。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの店や、人などとの交流が図れるように外出の機会を設けている。		遠隔地からの利用者もいらっしゃるのですが、今は全員ではないが、今後、個々の馴染みの場所を尋ねたり、人との交流の機会を増やしていきたい。
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	共同での作業や、フロアへの誘導などを行い、共同生活を有意義に過ごしていただけるよう援助する。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	今現在において、契約終了者からの連絡や関わりはあまり無いので、今後は関係を断ち切らない付き合いを行っていきたい。		解約時などでお声掛けを行い、気軽に遊びに来ていただけるような、働きかけを行う。
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者主体を心がけ、個々に話を傾聴しご本人にあった(希望を取り入れた)サービス提供に努めている。		現状として、状態に応じて実施できていない事もあるので、今後も様々な観点から検討しながら行っていきたい。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	職員一同で利用者個々の生活歴を把握し、回想法などを取り入れながら、日々の生活環境を有意義なものに支援できるよう努めている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	職員一同で個々の日々の生活スタイルを把握し、希望、変化等にも従事対応できるように務めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員、ご家族などとの連携を図り、ご本人の希望なども取り入れ、様々な観点でサービス提供を行っている。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	日々の健康状態、あるいは精神面などを把握し、その時々でご家族様などに連絡を取るなどして連携も取り合い、効果などを評価すると共に、見直しを行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に排泄、体位交換などの記録をとり、日々の状態の変化を見ている。また、職員の気づき、状態の変化などケア記録に毎日記載し、見直し、評価を行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	今現在は、事業所内での限られたサービス提供しか行っていないので、もっと外部にも眼を向け、幅広いサービス提供を行っていききたい。		本人、ご家族のご意向があれば、その都度対応を行っていく。また、事業所としても様々な観点からサービス提供を行っていききたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員、町内会長との交流、また、警察、消防などとも連携を保ち、利用者が安心して地域の中で暮らせられるよう支援している。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人の希望に応じて、馴染みの美容院を利用したり、買い物をしたりしているなど利用者のニーズにはこたえているが、他の機関との情報交換や話し合い、活用が不十分に思う。		今後とも、今以上に地域や他の機関と密接に関わりを持つように、援助を行っていく。
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議には、地域包括支援センターの職員が参加され、情報交換、協力関係を築いている。		話し合いは行っているが実践にはいたっていないので、今後とも十分な連携を図り、協力していききたい。
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者契約時に説明を行い、ご本人、ご家族の希望のかかりつけ医となっており、また、必要時には、他の医療機関も受診し、早期治療に務めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	主治医に認知症専門医がおり、その都度、適切な指示や助言をもらい、職員一同で対応している。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	日々の介護記録、様子観察のもと、主治医、看護職員との連携を図り、利用者の健康管理や、医療活用の支援を行っている。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院の必要時には、蜜に医師との話し合いをする機会を設け、対応を行う。また、職員も見舞いなど行うようにし、家族とも情報交換しながら、退院支援に結びつける。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期に対応指針を、本人、ご家族のご意向を尋ね、主治医、看護師との連携を図っている。		看取りに関する知識と状況に応じた適切な対応を、職員全員が出来るよう、勉強会などを開き、ご家族のご意向を尋ねた上で、職員全員で把握し、主治医などとの連携を図りながら実践に結び付けたい。
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	終末期に対応できるような職員の意識作りや、看取りに関する知識を身につけ、かかりつけ医との連携を保ち、本人やご家族の気持ちを考えた支援につなげる。		まだ不十分な点が沢山あるので、定期的に職員、医師などと連携を図り、今後の変化に備えていきたい。
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	本人、ご家族のご意向に沿った、支援の内容、生活環境作りを行う。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	職員会議などで、職員全員で内容を把握し、利用者、ご家族のプライバシーを損ねない対応を行っている。また、日々の生活における言葉使い、行動にも充分に気をつけている。	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	常に個々に声掛けを行い、本人の希望に応じて対応する。また、本人の意思を尊重するよう努める。	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	一人ひとりのペースにあわせ、体調に配慮しながら支援を行う。	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	身支度などは、本人の好みや意思のもと、見守りや支援を行っている。また、馴染みの美容院を利用したりなども行っている。	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	買い物、調理、盛り付け、後片付けなどを利用者と一緒にを行い、利用者と職員が食事と一緒にできるようにし、団欒の雰囲気作りを行っている。	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	お一人お一人の好みなどを把握し、また、その時に応じて献立を考え、楽しく、美味しく食事を行っていただけるよう工夫する。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	<p>気持よい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	<p>お一人お一人の排泄のパターンを把握し、トイレ誘導を行ったり、排泄介助を行っている。また、日中は出来るだけトイレで排泄できるように援助する。</p>		
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>曜日、時間を決めることなく、利用者の希望を尋ね入浴していただいている。また、介助を要する利用者には、安心して入浴していただけるような工夫を行う。</p>		
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	<p>日中の活動を促し、お一人お一人の生活リズムを整え、体調や、状態にも考慮し、夜間安眠に向けた時間の過ごし方に工夫をする。</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>お一人お一人に応じたお手伝い(洗濯物干し、たたみ、オシボリまきなど)を本人が認識し行ったり、声掛けのもと行ったりしている。また、行事参加なども行い楽しみ事も援助する。</p>		
60	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>本人、ご家族のご意向により、事務所で管理しているが、外出時や、買い物などの際には、本人の預かり金を所持し、可能な方は支払いをしていただくよう援助している。</p>		
61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>買い物の際などに声掛けを行い、また、本人の希望に応じた外出も行えるようにしている。</p>		
62	<p>普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	<p>個々の希望を傾聴したり、事業所で企画をしたりして、職員確保、体調などを考慮しときには、家族の協力を仰ぎながら支援していく。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個々の希望よりの電話での会話、手紙の送付など本人の状態に応じた援助を行っている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族や友人、親近者などの来訪を、気軽に出来る環境作りをしている。また、個々の居室での面会などプライバシー確保にも注意を払う。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	基本として、身体拘束は行わないよう職員一同で認識、確認しあい、利用者様の安全確保に努める。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	個々の居室には終日施錠はしない。だが、玄関に関しては、表が急カーブの坂道で、車の通りが多く、もしもの時の利用者様の安全を考慮し、施錠しているのが現状。		運営推進会議などでも議題に出し、検討を行っているが、実施までには行かず、今後もさらに検討をし、時間を決めたり、他者の協力を仰ぎ実践していきたい。
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	個々のプライバシーを配慮しながら、昼夜問わず十分な見守りを行う。また、安全の確保にも努める。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	個々のレベル、状態に応じた物品の提供や保管を行い、快適な生活環境の整備、あるいは、安全確保に努める。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	利用者様個々の状態を職員全員で把握し、転倒、誤嚥などの危険を未然に防ぐ対応を行っている。また、万が一の事故の場合には、事故報告書を作成し、今後の予防につなげる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	マニュアルを作成し、職員全員の認識を高め、急変時の適切な対処に努める。		マニュアルを作成するだけでなく、今後も頻繁に勉強会などを開き、技術習得を確実にし、急変時、どの職員でも適切な対応が出来るよう努める。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	毎年、避難訓練を実施し、利用者様の安全、適切な救助が行えるようマニュアルも作成。運営推進会議などで、地域の方々の協力を呼びかける。		今後の取り組みとして、風水害時の避難場所の確認、救出訓練などを定期的に行い、地域の方の協力も仰ぎ適切に行えるようにしたい。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	様々な活動に伴う、利用者様へのリスクを把握し、安全、安心対策に努める。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタルチェック、本人との接触、状態などで体調変化の早期発見に努め、職員間、医療機関の連携を図り対応する。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の処方箋を常に目を通せるよう、1つのファイルにまとめ、職員が個々の服薬について把握する。また、服薬の際、本人に手渡し、あるいは介助を行い、服用の確認をしている。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	トイレでの様子観察、本人の訴え、排泄介助などで、個々の排泄状態を記録、把握し、様々な働きかけを行っている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	利用者様の気持ちや状態に応じた一人ひとりの歯磨き、口腔ケアの対応をしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お茶を楽しむ時間を設け、水分補給を行っている。また、状態、季候、好みに応じた水分の取り方を工夫している。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症について全職員の認識を高め、予防、対策につなげる。また、マニュアルを作成し、情報収集、早期発見を行い、万が一の時は、日常生活の改善を行う。また、インフルエンザなどの予防接種も行っている。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具、台所の水回り、などは、毎日殺菌消毒を行い、清潔、衛生を心がけている。また、食材は、買い物に頻繁に出掛け、新鮮なものを購入している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関先にベンチを置き、サイドに、小さくはあるが花壇があり、癒しの空間の提供に工夫している。また、入り口に事務所を構え、家族様のプライバシーに応じた対応が出来る。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアは、利用者様がいつでも安全、且つ居心地良く出来るように、職員が必ずいて、家庭の居間のように、音、匂い、会話などが意識的に取り入れる工夫をしている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアに数名腰掛けられるソファがあり、利用者様同士が思い思いに過ごせる空間を提供する。また、個々の居室にも思い思いの工夫がしてある。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	思い思いの品物の配置や、飾りつけなど、職員と一緒にしている。また、介助を要する方には、本人の気持ちや状態を配慮した設置、飾り付けを行っている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	適度な温度、湿度に注意し、常に確認し調節している。また、窓を開けての換気や、匂いへの工夫もしている。」		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様の状態に応じた、調理器具、トイレ、廊下、ベットなど安全と使いやすさ、利用者様の自立を意識した工夫を行っている。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	利用者様の、身体、感情の状態に応じた変化は、職員全員で話し合い、検討を行っている。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関先のベンチ、花壇の活用、洗濯物を利用者様と一緒に干せるスペースなど、狭い空間ではあるが、家庭の匂いがする環境の提供を行っている。		

サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)